様式４

令和６年度第２回
富士見市社会教育委員会議
議事録

<table>
<tr><td>日　　時</td><td colspan="6">令和６年６月１０日（月）　　開会　午後７時００分
閉会　午後９時００分</td></tr>
<tr><td>場　　所</td><td colspan="6">富士見市立中央図書館　２階　視聴覚ホール</td></tr>
<tr><td rowspan="5">出 席 者</td><td rowspan="4">委　　員</td><td>本田議長</td><td>渡邉副議長</td><td>蘇武委員</td><td>内海委員</td><td>秋元委員</td></tr>
<tr><td>○</td><td>○</td><td>欠</td><td>欠</td><td>○</td></tr>
<tr><td>小栗委員</td><td>関野委員</td><td>戸田委員</td><td>八木橋委員</td><td>深瀬委員</td></tr>
<tr><td>欠</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>事 務 局</td><td colspan="5">生涯学習課　主任</td></tr>
<tr><td>公 開 ・
非 公 開</td><td colspan="6">公開（傍聴者０人）</td></tr>
<tr><td>議　　題</td><td colspan="6">１　あいさつ
２　協議事項
・第３４期のテーマ決定に向けて
３　その他
・各会議への参加報告</td></tr>
</table>

議　事　内　容
1　あいさつ 2　協議事項 ・第３４期のテーマ決定に向けて 【議　長】　目指したい姿について、どのように進めていくか、ということを検討してきた。前々回の会議では、対象者と関わり方について検討した。子どもをきっかけとした、みんなが関われるような仕組みという結論になった。関わり方についても検討し、ハードルの低さ、継続性、連続性、全ての要素が大事だという結論になった。前回の会議では、地域と場づくりについて意見を出し合った。委員から出された意見を資料にまとめたので、今回の会議では、まず、このまとめを確認したい。まとめ方について、なにか意見はあるか。 【委　員】　特になし 【議　長】　それでは、次に進みたい。目指したい姿を決め、対象者、関わり方、地域、場、４つの要素に分けて、各要素について検討してきた。次は、どのような方策をとるとよいか、どのような提言をすればよいか、考えていきたい。 【委　員】　活動プログラムの作成で終わることのないようにしたい。社会教育委員会議としては、教育委員会に対して提言を行うもの。市としてどうあるべきか、ということを意識してまとめていければいいのではないかと思う。 【議　長】　私たち社会教育委員は、イベントを企画する、というような立場ではなく、このようなイベントを開催すればよいのではないか、と提言する立場。この立場は見失わないようにしたい。 【委　員】　実際のイベントなどは行政がするもので、その前段階、問いかけをする立場、という理解でいいか。 【議　長】　基本的には考え方を提言する立場。それに伴ってある程度の具体的なイメージを検討する分には問題ないと思う。 【委　員】　富士見市の社会教育にまつわる課題について、その課題の指摘と解決案の提案ということで理解した。 【委　員】　３３期の社会教育委員も同じように提言書を作成していると思うが、それに対して市はどのように対応したのか。改善の方向に向かっているのか。 【事務局】　提言をいただいた後、生涯学習課長より教育委員会会議の場に提出させていただいた。テーマが世代をこえたつながりづくりということで、すぐに改善できる問題ではなく、委員には申し訳ないが、すぐに目に見える結果を出せたという訳ではない。 【委　員】　具体例を出さないと、受け取る方も扱いが難しいのではないか。ある程度焦点を絞り込む必要があるように感じる。 【委　員】　市の方で、社会教育委員会議で扱ってほしいと考える課題を示して

もらった方がいいのではないか。こちらで提言するテーマを決めても、それが市の抱える課題と合っているか。いざ提言してみても、市が抱える課題とギャップが出てしまうのではないか。

【事務局】　お話を聞いている限り、今のところ大きなギャップはないかと思う。

【委　員】　漠然としすぎているきらいはあるかもしれない。様々な話が出ているが、真に課題となるのはどこか。そこに合わせて問題点を絞っていった方がいいのではないか。

【委　員】　今までの議論は、論点を拡散させ、広げられるだけ広げたものだと思う。それはそれでいいと思うが、その前に強みと弱みをまとめる作業も行っている。例えば、今参加していない人を巻き込む方法や、関わっている人の高齢化など、いくつか弱みとしてまとめている。それが、必ずしも今の議論と噛み合っていないかもしれない。そこが噛み合うといいのではないか。材料は多く出ているので、どこに焦点をあてるかということだと思う。

【委　員】　これまで１年間やってきたことが、皆さんが思っていることを吐き出してもらい共有し、という発散のフェーズだった。今後はこれを絞りこみ、どこに打つ手を見出したら効果的なのか、考えていくフェーズになる。

【議　長】　委員のお話にもあったように、ある程度具体的な提言になっていないと、受け取ってもらえない。また理想論だけを語るのではなく、実現可能性があるものである必要がある。また課題にフィットしている、富士見市の社会教育がより良くなりそうだ、と思ってもらえるような内容にする必要がある。そういった点を踏まえて、今まで議論してきた中で、どういう施策を打ち出すと良いか、以前まとめた目指す姿も踏まえて考えていければ。それぞれの課題は紐づいており、横断的になっていないという話や、途中で離脱してしまう人がおり、後継が育たないといった課題が挙げられていた。目指したい姿の裏側に、課題として挙がっているものが必ず潜んでいる。目指したいことを実現するために、どこに手を打つか。自由に発言いただいて、焦点を絞っていきたい。

【事務局】　地域の話をしていた時に、知ってもらうための積極的なＰＲという話が出ていた。行政の一担当者としては、知ってもらうための工夫に難しさを感じている。例えば人材バンクを多くの方に知ってもらうために、文字だけでなく、写真も使って広報したい。しかし写真を使うと更新や管理に手間がかかる。他にも生涯学習ガイドを発行しているが、どのような工夫ができるのか。あくまで担当一人の課題感ではあるが、この点について、もしご意見をいただけるのであれば、実務に反映しやすく、また大変ありがたいと感じた。

【委　員】　公民館だよりなど、様々な広報物を見ているが、もちろんすべての人が見ているわけではない。また良いイベントがあっても、参加してみよう、というところまではいかない人も多いのではないか。

【事務局】　ご指摘の通り、一歩を踏み出してもらうための広報について、難しさを感じている。

【委　員】　色々と種類が多すぎるのかもしれない。配布物の数が多くて煩わしさを感じている人もいるのではないだろうか。また時間があれば見る余裕もあるが、その暇がない人もいる。ホームページやＳＮＳは、そもそも機器の使い方が分からなければ見ない。そう考えると目を引くＰＲというのは必要かもしれない。

【委　員】　私もイベントをやる時は苦労している。ふじみ野市の行政職員と協力して活動しているが、ＰＲは市民側がやっている。個人のＳＮＳを使ったり、人が多く集まってきそうなところにチラシを置いたり、みんな苦労はしていると思う。最近富士見市の社会福祉協議会の職員から、イベント参加者等が増えたと聞いた。ホームページのリニューアルが要因として大きかったそう。ホームページの見やすさなどの重要性を感じた。また、知り合いの大学生がｗｅｂデザインなどをしている。年が離れていても対等に話してくれて、困っていることがあったら手伝うと言ってくれており、学生の力をうまく活用できないか考えている。方法は様々で、あの手この手を尽くして、できることは全部やる、くらいの勢いでやらないと人は集まらない。しかしちゃんとやると、遠くからイベントに参加してくれる人もいて、地道な作業の積み重ねだと思う。

【委　員】　自治体の発信で問題だと思うのが、ターゲットとタイミングがずれているのではないかということ。過去から使ってきている媒体や運用の仕方によるところが大きいのだろうなと思う。そこがもう少しターゲティングができるなど、手法が色々とある中で、なにをどのタイミングで使うのか、的確にやっていくことが必要ではないかと思う。

【委　員】　行政もやれることはやっている、という印象はある。

【事務局】　広報紙、ホームページ、ＳＮＳ、情報発信の各種をすべて使ってはいるが、数を打っている感はあるかもしれない。

【委　員】　自治体であるから、性質上特定の人にフォーカスするというのがやりにくい事情があるのではないか。

【委　員】　ターゲットをしぼったＰＲというのはどうやるのがいいのか。

【委　員】　内容による。委員からお話があったが、色々な手を尽くしていることが大事なのかもしれない。また市民側も、行政にお願いするだけでなく、主体的にやっているということこそが重要だと思う。

【事務局】　口コミというお話があったが、確かに市民の方に聞いてみると、友達に誘われたから、という人が多い印象がある。横につながりを広げるという力は、市民のみなさんの方が圧倒的に持っているように感じている。では行政は何ができるかというと、横断的につなげることや、団体同士をマッチングすることではないかと思う。市民が得意なこと、行政だからできること、その見極めが難しいのかもしれない。その辺をご指摘いただいてもいいのかもしれない。

【委　員】　つなぐというのはとても大事だと思う。主体的に動いている者同士がつながると、大きなことができる。主体性が重要で、それがないと始まらない。今小さく動いているものを大切にしながら、それを

つなげていけるのは、全体を見渡すことができる行政だと思う。ただ出会わせ方も難しい。代表者を集めるだけではおもしろくない。出会わせるための良い工夫があれば、自然と市民同士の緩やかなつながりができる。社会教育においては、見えないところのつながりが一番大事で、土壌の部分を作っていくのが社会教育だと聞いた。市民の緩やかなつながりの中から生まれてくるものがあるのではないか。また、子どもの頃から地域社会とつながっていくことで、その子たちが大きくなったときに、地域でなにかしようという思いが生まれる。思いがないと地域の団体に入ろうとも思わないかもしれない。すべてのことが、つながりから出てきそうな気がする。

【委　員】　オープンスペーステクノロジーに関する書籍を読んでいるが、まさに緩やかなつながりづくりに資するものなのではないかと感じた。

【委　員】　市役所は、それぞれ部に分かれて活動している。部と部とが、お互いに連携し合うものはなにかあるのか。防災訓練をした時に、その時は市長を中心にそれぞれ担当する部に分かれて指令を出したりしているが、普段はなかなか連携していないのではないか。今は何もないからいいが、災害など有事の際に、本当に連携できるのか疑問に感じた。それぞれ部局同士のつながりが欠けているのではないか。各部局ではその部局なりにいろいろとやっているのだと思う。それをまとめるのも必要ではないか。

【委　員】　確かに有事の際は人命に関わるので、連携は大切。人のつながりも、なにかあった時に一緒に動けるかどうか。地域でつながりがあれば、みんなで助け合うことができる。

【事務局】　民間企業は部局間の連携をどのようにしているのか。

【委　員】　風土や文化による。お互いの利害や自分の都合を押し殺してでも全体最適を考え、全体を調整できる人や組織、ルールがあるといいのかもしれない。

【委　員】　企業も役所も、全体をまとめられる人が出世できるとは限らない。また上の人が連携をとろうとしても、下の人がそれに従うかどうか、それもまた別の問題としてある。

【委　員】　市民同士においても、役所の中においても、みんなが上手くつながっていけるようにするものはなにか。昔三芳町は広報が分かりやすく評判が良かった。興味が引かれるものを作るために１つの課だけではなく、色々な知恵を使って広報を作り上げること、それが連携につながっていくのではないか。

【委　員】　広報は自分に関係のある記事が載っている時しか読まない人が多いのではないか。例えば子どもが小さかった時は、予防接種などの情報が必要だったので広報を確認していた。また表紙で興味をひかれた時に中も見てみようと思うこともあった。団体の横のつながりという話があった。役所で開催されているものとして、私は新年賀詞交歓会や、公民館区の賀詞交歓会が思い浮かぶ。それ以外に各種団体を集めて団体間の情報交換会を開催しているようなものはなにかあるか。

【事務局】　部局を超えて、となるとあまり思い浮かばない。
【委　員】　協働推進課でＮＰＯの交流会を開催している。そういう集まりに一般市民も参加できると、色々な意見が聞けておもしろいかもしれない。公民館で利用者を集めた会議はあるのか。
【委　員】　公民館各館で利用者懇談会というものがある。４館合同の集まりはない。
【委　員】　公民館まつりなどは色々な団体が関わっているのか。
【委　員】　実行委員会形式となっており、その実行委員は様々な団体から選ばれている。
【委　員】　そういう関わりから、新たな活動が生まれることはあるのか。
【委　員】　例えばあるイベントに高校のジャグリング部を呼んだところ、好評だったため他の催しの際も声をかけるというようなことはあった。
【委　員】　公民館同士での関わりや連携はないのか。
【委　員】　公民館運営審議委員会ならある。各館で情報交換をすることもある。たとえば公民館カフェなども公民館運営審議委員会が発端となった。公民館では地域の住民同士のつながりなど、ある程度行われてきた。この基盤は活かしていきたい。地域だけではもちろんカバーしきれない部分もあると思う。しかし地域というのは大事にしていく必要があるのではないかと思う。
【議　長】　みなさんのお話を伺っていて、つながりがポイントになってくるのだと思う。今あるつながりは活かしつつ、うまくつながっていないところをどうするか、という話しになるかと思う。
【委　員】　第３３期では世代をこえたつながりづくりをテーマにしていた。今回もやはりつながりを中心にしたテーマになるか。
【委　員】　今回は、つながりというより広がりの方がイメージに合うか。
【議　長】　どうつなげるか、その具体的な提案がまず一つ。また、つながることでどのようなメリットがあるのか、そのつながりをどのように活用できるのか、示していく必要がある。
【委　員】　それぞれの活動はいいが、全体を見た時につながりが足りないのではないか、個々をつなげることができれば、もっと良くなるのではないか、という示し方か。
【議　長】　以前の会議で出た委員の意見から着想を得たが、今市内で活動している団体がすべて入っているプラットフォームをつくることがスタートではないだろうか。どこの地域で、どのようなテーマで、など、色々な切り口で検索できるようになると、活用しやすい。活動している側もつながりやすいし、新しく参加してみようと思った時に興味のある団体を探しやすい。同じようにイベントも一覧化し索引で引けるようになっていると探しやすい。そういったものがあれば、あとはどう活かすか、考えることができれば。
【委　員】　市内で開催されるイベントであれば、市民はどこの地域の人だろうと参加できる。市外の人は参加できるのか。
【委　員】　イベントによる。定員が少ないものについては参加条件を付している場合もある。

【委　員】　人数制限などを設けず、広い会場を用意するなど、様々な人が参加できるような工夫ができないか。個々の活動単独ではなく、一緒になって活動できるような雰囲気作りができるといいのではないか。

【議　長】　単体で活動をするのもいいが、何かを組み合わせることで来る人が変わったり、広がったりするかもしれない。

【委　員】　公民館まつりを４館合同で開催するなど、おもしろいのではないか。

【委　員】　会場となる施設の場所や広さの問題もある。大きいことをしようとすると、選べる会場は限られる。

【委　員】　プラットフォームの具体的なイメージを伺いたい。

【議　長】　市内の団体に登録をしてもらい、団体のデータベースを作る。それがプラットフォーム。そこに全ての団体や、イベントの情報が集まっていて、任意のキーワードで検索できる状態。その土台があった上で、活用する方法を考える必要はある。内容で興味のある団体を絞り込み、その団体の活動やイベントに参加するなど、切り取り方は色々あると思う。

【委　員】　どんな団体があるのか、どんなイベントがあるのか、みんなが知る必要がある。一覧できるものがまずはあること。そしてそれが広く市民に普及すること。そうなれば、参加を促すこともできるし、活動同士がつながるきっかけにもなる。

【委　員】　色々な使い方ができる情報の体系化ができれば。

【議　長】　ネットに慣れていない方には紙媒体がいいかもしれないが、そうなると、一面的な情報の切り取り方になってしまう。ネットであれば様々な条件で検索することができる。

【委　員】　確かにアクセスしやすい所にデータベースがあり、自分で情報を選ぶことができれば、もっと便利だと感じる。

【事務局】　データベースに近いものはある。ただ、ホームページの容量や仕様の関係で、ＷｏｒｄやＥｘｃｅｌで作成したものをＰＤＦ化して掲載しているため、検索はできない。団体やサークルの一覧である公の施設利用団体・サークル一覧。またイベントの一覧として生涯学習ガイドというものも発行している。年度末から年度始めにかけて、全庁対象に照会をかけて作成している。生涯学習ガイドについてはホームページでの公開に加えて、公共施設にも印刷して配布している。活用しやすい形を考えていければ、委員のお話しにあったデータベースに近付くのではないかと感じた。

【委　員】　生成ＡＩを使えば、ＰＤＦからでも情報を活用できる。情報として収集されているのであれば、活用できる術はあるかもしれない。またデータベースは市民だけでなく行政職員も使えるもの。行政が市民の活動を知るきっかけにもなり得る。１つの課とつながりができれば、他の課ともつながりやすくなる。市民の活動を軸に、行政の横の連携にもつながる可能性がある。

【委　員】　理想はデータベースがあって自由に活用できる状態かもしれない。しかし誰がやるのか、予算はどこから出るのか、現実的な問題がある。事務局から生涯学習ガイドについて話しがあったが、とりあえ

ず既存のものを集めて、それをどう活用できるか考えていけると良いのではないか。またつながるための１つの手段として、広報があると思う。社会教育関係の広報は現状どのように行われているのか。時代に合わせた広報にするためにはどうしたらいいのか、そういった部分を検討できると、より現実的ではないだろうか。今あるものの状態を知ることから議論を進めてもいいのではないか。

【委　員】　生涯学習ガイドなど既存のものについて、次回の会議で資料として配布してほしい。

【議　長】　つながりをつくるために、既存のものをいかに活用するか。理想の姿を描きつつ、現実的なところから示していければ。

３　その他

・各会議への参加報告

【委　員】　入間地区社会教育協議会について、総会が５月１４日に開催された。ポイントは以前からこの場でも話題に挙げている、埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会への加入について。非加入について反対する方もいたが、投票が行われ、賛成多数で非加入となった。他の議案についてはすべて承認された。検討事項として、各部会の助成費について、また事務局体制について示された。

【委　員】　最初に研修会があり、その後に総会という流れだった。時間のかかる議案があると分かっていたので、時間配分や段取りに若干疑問が残った。